

# 『復興を成し遂げるまでの過程を 自分達の手で確認し、 勉強していく事が大事』

鈴鹿商工会議所青年部会長 三船正美

7月9日(土)に鈴鹿商工会議所青年部(三船正美会長)7名と同OB会(伊藤素近副会長)1名の総勢8名が、東日本大震災の支援活動の為、前回に引き続き宮城県気仙沼高校を訪れました。

今回の目的は、JA鈴鹿 柿本代表理事組合長はじめ職員の方々や、JA鈴鹿受託者部会 杉野部会長はじめ部会員の方々を中心となり集めて頂いた《鈴鹿・亀山義援米》2.2トンを、気

仙沼高校避難所に届ける為に被災地入りしました。

現地の気仙沼高校では、現在もまだ約120の方が避難生活を送っています。前回訪問時の600人から考えるとかなり少なくなりましたが、避難されていた方は、自宅や気仙沼中学校に建てられた仮設住宅へ移転されたそうです。

しかし、移転先では食料の配給はなく、まだまだ食事、物資、生活設備

(クーラー等)が不足している為、色々な方々がボランティア活動を行っていました。今からの季節、非常に暑くなり、避難所での生活は益々難しくなってくると思われますので、被災者の方々の体調が心配です。

気仙沼高校避難所と気仙沼中学校仮設住宅では、550杯のかき氷の振り舞いを行いました。前日までの天気は雨模様でしたが、振り舞い当日は、

今年1番の暑さということもあり、約2時間のかき氷が全て無くなってしまっただけで被災者の方々に受け入れて頂き、喜んで頂けたと思います。

今回の《鈴鹿・亀山義援米》を避難所で受入れて頂いた、自ら被災しながらも現地で、救援物資の収集、被災住宅等への物資の配送などをボランティアとして活動し続けている、気仙沼商工会議所青年部OB(平成16



↑気仙沼港付近。



↑坂井さん(気仙沼YEGOB)の店舗は、現在もこの状態のまま



←気仙沼高校避難所



←気仙沼中学校にてかき氷のふるまい

年度東北ブロック商工会議所青年部連合会会長)の坂井政行さんは「非常にありがたい。米がまったく不足していたので皆が喜んでくれる。」と言ってくださいました。私達は「鈴鹿・亀山の心を持ってきました」と坂井OBに託しました。

被災地の状況としては、前回視察させて頂いた気仙沼港付近の被災地に再度連れて行って頂き、車から降りてメンバー全員で現地の悲惨な状況を確認し、復興の状況を把握させて頂きました。前回訪れてから約3ヶ月が経ちましたがまだまだ瓦礫等の処理は3分の1程度に感じました。

しかし、少しずつ確実に前に進ん

でいるという事も実感しました。1日も早くこの被災地が復興し、また、復興の為の何らかのお手伝いが出来れば・・・と、メンバー一同心を1つに共有しました。

前回に引き続き気仙沼にお伺いさせて頂き、これからもこの地に対して私達ができることを少しずつ長いスパンで支援活動を行い、自分達も現地入りする事によってこの悲惨な状況から復興を成し遂げるまでの過程を自分達の手で確認し、勉強していく事が大事だと改めて強く思いました。今後も色々な形で皆さんに協力を呼びかけ、支援活動を続けて行きたいと思いません。



←今回支援にあたったメンバー



↑JA鈴鹿義援米の積み込み